

研修 NOW!① 第3ステージ 期末研修



免許更新制に替わる「新潟市教職員研修」が今年度からスタートしました。初任から6年目までを第1ステージ、7年目から13年目までを第2ステージ（第2ステージでは中堅教諭等資質向上研修を受講）、第2ステージ修了後からは第3ステージとし、採用から退職の年まで、切れ目のない研修体系を設定しています。今号では、第3ステージにおける期末研修の様子を紹介します。

第3ステージでは40歳、45歳、50歳、55歳、60歳を迎える区切りの年度に、対象者全員が受講する節目の指名研修が行われます。これが期末研修です。初任者研修や中堅研修など採用された年度や教職経験年数で受講する研修はあったものの、年齢により受講対象者が区分される研修というのは、今まであるようではなかった研修です。期末研修に集うのは、経歴や役職の差はあれども、同じ年齢の仲間です。子どもたちの未来のためにより広く学ぶことはもちろんですが、期末研修を機会に、笑い合ったり、励まし合ったり、慰め合ったり・・・そんな同年齢の新しいつながりができることも期待しています。

《第3ステージ1期 期末研修(40歳)》

池田 浩 教育次長から『ミドルリーダーに期待すること～過去・現在の「自分」と向き合い、未来の「自分」を創る～』と題して、ご講義いただきました。キーワードとして「メタ認知」「SELF-AWARENESS」「アン・ラーン」「リーダーシップ」などに触れながら、未来の「自分」を創るために、過去の「自分」を振り返ったり、今の「自分」を見つめ直したりすることを通して、考えることをやめない、学ぶことをやめないことが大切であるというメッセージをいただきました。



《受講者の声》

- ・講話の中で、「考え続ける、学び続ける」というところが非常に共感できました。教師も日々の教育活動を適切に振り返り、成長を続けなければならないと感じました。また、池田教育次長のように情熱を持ち続けていきたいと感じました。
- ・同じ年齢の先生方と話すことで、自分の考えに共感してもらえたり、違う視点をもらったりと、とても充実した時間を過ごすことができました。どこかで同じ年齢の誰かも頑張っている！と思えることは、自分の支えになります。本日はありがとうございました。

《第3ステージ2期 期末研修(45歳)》

「教育委員会の組織について学び、生涯学習について考える」をテーマに研修を実施しました。前半は本間 金一郎 教育次長から『新潟市の組織について～教育委員会との関係～』と題して、ご講義いただきました。後半は「これからの社会を生きていく上で必要な資質・能力を育むために、学校現場でどんなことができるか」を生涯学習の視点から、グループで協議しました。同年齢でのグループワークに話が盛り上がり、協議に熱が入りました。



《受講者の声》

- ・本間教育次長の講話で、組織を編成する上で簡素かつ効率的なものとなるように配慮しなければならない、とおっしゃっていたのが印象的でした。
- ・行政からの大きな視点で、普段の学校教育を見直すことで、普段と違った課題が見つかり、今までとは異なる視点で子どもたちの成長を支援できると思いました。
- ・日々、目の前の児童の指導に追われていると、現状だけにピントが合いがちでした。しかし本日のお話を伺って、生涯に渡って学び続けるために、その資質を身に付けるという視点ももって指導に当たりたいと思いました。

研修 NOW!② 初任者、若手5、中堅修了



初任者研修、若手5年目研修、中堅研修 13年目グループが、最後の研修を終えました。次年度からは、次の研修、ステージへと歩みを進めていきます。



初任者研修 修了式



若手5年目研修 修了式



中堅研修「まとめ」

平成 19 年度から始まった「マイスター養成塾」は、昨年度末までにのべ 125 名のマイスターを認定してきました。今年度は、若手 5 年目研修における指導案検討や授業公開での指導、行政研修における講師、マイスター連絡協議会主催のマイスターオープンクラス（MOC）の開催など、マイスターの活躍の場がありました。また、総合教育センターHPには、マイスターが作成した学習指導案や実践記録などが掲載されています。



亀田東小学校 小林 治雄 主幹教諭
MOCでの体育実技講習会



小針小学校 三本 雄樹 教諭
MOCでの体育授業公開・協議会



宮浦中学校 渡部 陽平 教諭
総合教育センター主催講座での講師

column 植物資料室

ショウジョウバカマ：ユリ科 ～ 雪どけとともに花開く ～

春早く 20 cm 位の花茎の先に 15 個くらいの花をつける常緑の多年草です。花が終わった後でも花茎を伸ばし、細かな種子を遠くへ飛ばしたり、葉の先に子苗を作ったり、子孫を残すことにかけては、なかなかの戦略家です。

ショウジョウ（猩々）とは想像上の動物のことで、頭や顔の赤いところをこの花に、葉を袴に見立てての名だそうです。花の色も朱からピンク、青っぽいもの、時に白もあります。雪消えの山道で綺麗な朱色の花に出会ったときの喜びは格別です。

植物資料室のデータベースでは、新潟市はじめ県内外で採集された 49 点のショウジョウバカマのデータを公開しています。

ショウジョウバカマ写真はこちらから→
総合教育センターホームページ内「植物資料室」ページ
(シリーズ＜四季折々の植物＞)



《植物資料室から一言》

植物資料室にヤハズトウヒレンという名前で管理されている標本があります。富山県の研究者が、この中にアラサワトウヒレンの標本があることを見つけました。アラサワトウヒレンは、2013 年に新種として発表されたキク科の植物で、魚沼市の荒沢岳だけでしか見つかっていませんでした。ところが、当資料室の標本の中には、荒沢岳に加えて、魚沼市の鬼が面山で 1971 年に採取されたものもありました。この標本は、アラサワトウヒレンの分布図をかき換えた貴重な資料となっています。(植物資料室 [TEL:025-250-0135](tel:025-250-0135))